報道関係者各位

2026 年 10 月 27 日
特定医療法人南山会

生成 AI サービス「エクサベース AI」を法人公式 AI として導入
シャドーAI を「禁止」ではなく「公認」で受け止める
～職員が開発した業務アプリを 2 段階で審査する制度も整備～

特定医療法人南山会は、複数の生成 AI モデルを安全に使える法人向け生成 AI サービス「エクサベース AI※1」を法人公式の生成 AI として導入し、10月1日より運用を開始しました。職員が個人契約した生成 AI を業務で利用する「シャドーAI※2」の広がりに対し、禁止ではなく「安心して利用できる環境」を整備することにより対応します。職員がバイブコーディング※3 で開発したアプリケーション（以下、アプリ）の業務内での利用を AI と倫理委員会が審査する制度も整備し、利用準備を進めています。

※1 エクサウィザーズグループが提供する法人向け生成 AI サービス：https://exawizards.com/exabase/gpt/

※2 シャドーAI とは、組織が把握、許可していない生成 AI を職員が個人の判断で業務に利用することです。個人情報 の入力や機密情報の漏えいなどのリスクがあります。

※3 バイブコーディングとは、生成 AI に自然言語で人間が指示を出し、対話を重ねながらアプリなどを作る開発手法です。プログラミングの知識が少なくても、アイデアを形にしやすい特徴があります。

※ エクサベース AI を用いて生成したイメージ画像で

■ 背景：地方の医療・福祉現場の人手不足と南山会の DX の取り組み

少子高齢化と若年層の都市部への流出により、地方の医療機関や福祉施設は人手不足に陥りやすい状況にあります。当法人はこうした将来への危機感から、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進めてきました。RPA（定型作業を自動で行うソフトウェアロボット）はこれまでに 25 体を開発し、人 の手に置き換えると年間 1,214 時間分の作業を担っています。また、生成 AI エージェント開発プラットフォーム「Dify」を用いて、医師の文書作成支援を試験的に始めています。

■ シャドーAI という課題とエクサベースの導入

生成 AI に指示を出すだけでアプリなどを作れる「バイブコーディング」の普及に伴い、当法人でも職員が自ら業務アプリを開発する例が出ています。具体的には、勤務表を作るアプリや、リハビリ利用者の身体データを入力すると説明資料を自動で出力するアプリなどです。当法人はこれらを業務効率化

に向けた前向きな取り組みと評価しています。しかし一方で、これらのアプリは職員が個人で契約した生成 AI を使って開発されており、法人が把握・管理していない、いわゆる「シャドーAI」にあたります。シャドーAI は、退職時のデータ持ち出しや、無料プランの利用により入力した情報が AI の学習に使われるといったリスクがあります。しかし、生成 AI の利用を禁止するルールを設けるだけでは職員の改善意欲に応えられず、利用が潜在化して見えないところで利用されるおそれがあります。そこで当法人は、以下の理由からエクサベース AI を法人公式の生成 AI として導入することに決めました。

- 複数の生成 AI モデルを切り替えて使え、作成したエージェントや参照データ（RAG）を法人内で共有できる
- 人名などの個人情報や機微な情報が入力されると自動で回答を拒否する仕組みがあり、安全性が高い
- 入力内容が生成 AI のモデル学習には使用されない

■ 職員開発アプリの審査制度

エクサベース AI の導入とともに南山会では、職員が開発したアプリを業務で使うための申請・許可制度を整備しています。まず DX 推進室が、エクサベース AI 上のエージェントコレクションを用いて「悪意のある有害なコードが含まれていないか」「第三者から攻撃を受けた場合の脆弱性がないか」などをセキュリティーの観点から判定します。判定結果は法人の倫理委員会に提出し、倫理委員会が業務利用を許可します。すでに複数の申請を受けており、10 月下旬に最初のアプリの利用開始を見込んでいます。

■ 今後の活用方針

今後は各種の規程やマニュアルをエクサベース AI に参照データ（RAG）として登録し、次のような用途でエクサベース AI を活用することを想定しています。

- 看護や介護の手技（ケアの手順や技術）を生成 AI に確認し、正しく安全なケアを提供する
- 就業規則などに関する問い合わせへの回答をする（担当者を介さずに疑問を解消）
- 倫理的な判断に迷う事象が生じた際に相談し、参考にする
- 広報資料、掲示物、会議資料の作成

職員が日常の疑問をその場で解消できる環境を整えることで、業務の負担を減らし、患者・利用者へのケアに充てる時間の確保につなげます。

■ コメント

理事長 川﨑洋介

当法人が AI を活用する目的は、業務効率化や生産性の向上にとどまるものではないと考えています。私たちが目指すのは、AI に任せられる仕事は AI に任せ、医療従事者が本来の専門性を発揮すべき仕事、すなわち患者さん一人ひとりと向き合い、その方の思いに耳を傾け、尊厳ある医療とケアを届けることに、より多くの時間と心を注げる環境をつくることです。今回のエクサベース AI の導入にあたっては、一部の職員ではなく全職員が安全に、そして手軽に使えることを重視しました。AI は医療従事者としての価値を高め、やりがいを持って働くための手段です。職員の幸せが患者さんやご家族、地域の皆さまの幸せにつながる。その循環を、AI の力も借りながら育てていきたいと考えています。

法人企画部 DX 推進室長 川口敦

生成 AI は目覚ましい速さで進歩しており、ニュースで聞かない日はないと言ってよいほどです。業

務の効率化や、より質の高い医療・福祉サービスの提供など、生成 AI がもたらす利益をさらに追求したいと考えています。一方で、生成 AI にはさまざまなリスクも指摘されています。そのひとつがシャドーAI です。退職後のデータの持ち出しや、無料プランでは入力した情報が学習に使われてしまうリスクなどがあり、悩ましく感じていました。今回のエクサベース AI 導入がシャドーAI への対策となり、さらなる発展につながればと考えています。

株式会社 Exa Enterprise AI　エクサベース AI 事業責任者　前川知也

生成 AI を禁止するのではなく、安心して使える環境を整えることでシャドーAI に向き合うという南山会様の取り組みに強く共感するとともに、その基盤としてエクサベース AI をご採用いただいたことを大変嬉しく思います。エクサベース AI は、複数の最新の生成 AI モデルを安全な環境で使い分けられるうえ、法人内のデータとの連携やエージェントの作成・共有を通じて、一人ひとりが日々の業務の中で自然に AI を活用できることを目指した法人向け生成 AI サービスです。人手不足が深 刻化する地方の医療・福祉の現場で、AI に任せられる仕事を AI に任せ、患者さんや利用者さんと向き合う時間を生み出すことは、『AI を用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する』というエクサウィザーズグループのミッションそのものです。全職員の皆さまが AI を使いこなし、その力を地域の医療とケアに生かせるよう、私たちも伴走してまいります。

■ 取材のご案内

エクサベースの利用場面の撮影や、職員・担当者へのインタビューなどの取材に対応いたします。

■ 会社概要

【社名】　特定医療法人南山会
【設立】　1957 年 7 月 2 日
【代表】　理事長　川﨑 洋介
【住所】　〒400-0405　山梨県南アルプス市下宮地 421
【事業内容】
精神科病院 峡西病院
障害者地域活動支援センター きがる館
訪問看護事業所 アルプス訪問看護ステーション
介護老人保健施設 峡西老人保健センター
就労継続支援 B 型事業所 アルプスファーム
【URL】　https://www.nan-zan.or.jp/

＜お問い合わせ先＞
特定医療法人南山会
TEL：055-282-2151（代表）　055-288-0750（直通）　FAX：055-284-4886
担当：川口